



月刊税理士事務所チャンネル CHANNEL

2022
8
No.492

シリーズ企画

ウェブ会議のポイント解説.....8

第46回全国統一研修会

いわて盛岡大会開催案内2

大特集 北東北地方の魅力を徹底紹介!!4

事務所訪問

税理士法人恒輝 八戸経営会計事務所12

ミロクシステムQ&A

『会計大将』15

会計人のリレーエッセイ

東北ミロク会計人会 植田 良実19

今月の表紙:盛岡市街地を望む

場所:岩手県盛岡市

日本の未来一
企業を支える



ミロク会計人会

<https://www.mirokukai.ne.jp/>

岩手から新しい未来へ

第46回全国統一研修会

いわて 盛岡大会

■主催:ミロク会計人会連合会

■担当:東北ミロク会計人会

■協賛:株式会社ミロク情報サービス

■日程 令和4年10月13日(木)

■会場 ホテルメトロポリタン盛岡

【本館】

〒020-0034 岩手県盛岡市盛岡駅前通1番44号

【NEW WING】

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通2番27号

TEL: 019-625-1211

●受付開始: 午後0時30分～1時45分

●式典・基調講演: 午後1時45分～4時00分

●第1・2・3分科会: 午後4時30分～6時00分

●懇親パーティー: 午後6時30分～8時30分

●郷土物産展: 午後0時30分～7時00分

式典・基調講演

定員／800人 参加費無料



「ニューロマーケティング」

～消費者の深層心理を探る～

■時間: 午後1時45分～4時00分

■会場: NEW WING 4階(メトロポリタンホール)

■講師: 脳科学者／医学博士／認知科学者

中野信子氏

●プロフィール

1998年 東京大学工学部応用化学科卒業

2008年 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻博士課程修了

2008年 フランス国立研究所にて博士研究員として勤務

2010年 帰国。研究・執筆を中心に活動

2013年 東日本国際大学客員教授、横浜市立大学客員准教授に就任

2015年 東日本国際大学教授に就任

2020年 京都芸術大学客員教授に就任

●主な著書

「フエイク ウソ、ニセに惑わされる人たちに」小学館新書

「世界の『頭のいい人』がやっていることを一冊にまとめてみた」アスコム

「中野信子のこども脳科学『イヤな気持ち』をエネルギーに変える!」フレールベル館

「空気を読む脳」講談社+α新書

「科学がつきとめた『運のいい人』」サンマーク出版 他多数

●メディア実績

日本テレビ「バンキシャ」ご意見バン

テレビ朝日「天下容子ワイド! スクランブル」毎週金曜コメンテーター

NHK BSプレミアム「英雄たちの選択」

フジテレビ「ホンマでっか!? TV」 他多数

現在、脳や心理学をテーマに研究や執筆の活動を精力的に行っている。
科学の視点から人間社会で起こりうる現象及び人物を読み解く語り口に定評がある。

第1分科会

定員／250人 参加費無料

DX?電子化?って何なの
今知るべき、税理士のための

「電子インボイス・電帳法への取り組み」

■時間：午後4時30分～6時00分

■会場：本館4階(右手)

■企画運営：ミロク会計人会連合会／情報ネットワーク委員会

巷に溢れる「DX」という文字。改正電子帳簿保存法への対応にインボイス制度への移行、それがさらにデジタルインボイスに? 納税者のデジタル化支援は税理士の業務に改正済み!? 待った無しに迫り来る新たなデジタル化への大変動に税理士・会計事務所の業務はどう変わるのか? モヤモヤした疑問を具体的にMJSソフトを見ながら解説します。情報ネットワーク委員が疑問をぶつけつつ、MJSソフトは何をどこまでやってくれるのかを分かりやすくお届けします。

第2分科会

定員／250人 参加費無料

「震災とコミュニティを
考える」
縁が結ぶ復興への絆

■時間：午後4時30分～6時00分

■会場：NEW WING 3階(星雲)

■講師：前岩手県遠野市長

本田 敏秋 氏

●プロフィール

神奈川大学法学部卒。1970年(昭和45年)岩手県庁入庁。消防防災課長、工業振興課長、企画調整課長、久慈地方振興局長などを経て2002年(平成14年)の旧遠野市長選で初当選。2005年(平成17年)の合併に伴う新市長選に無投票当選。市長として通算5期19年6カ月務めた。「30年以内に99%」の確率で発生すると言われていた宮城県沖地震による津波災害、遠野市は地理的条件などを活かし、震災前より災害時の後方支援拠点として全国でも類を見ない大規模訓練「みちのくアラート2008」が行われ、機能強化を図ってきた。「後方支援拠点構想」は実現すべき確かな計画として捉えられ、まさに「構想」から「実践」、そして「カタチ」として位置付けられた。東日本大震災では市として官民一体の指揮を執り沿岸被災地の後方支援活動を行っている。

第3分科会

定員／200人 参加費無料

「町の未来を
この手でつくる」

■時間：午後4時30分～6時00分

■会場：NEW WING 11階(ギャラクシー)

■講師：株式会社オガール 代表取締役

岡崎 正信 氏

●プロフィール

1972年岩手県紫波町出身。日本大学理工学部土木工学科卒、東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻修了。地域振興整備公団(現・都市再生機構)入団後、建設省都市局都市政策課などで地域再生業務に従事。現在はオガールプロジェクトの中核である(株)オガール(オガールベース)、オガールプラザ(株)、オガールセンター(株)代表取締役として、紫波町の公民連携事業を企画推進している。同プロジェクトは、「2013年土地活用モデル大賞」において、最高賞の国土交通大臣賞を受賞するなど、注目を集めており、全国各地の地域づくり指導・講演活動に奔走している。2018年建築学会賞業績賞受賞。株式会社オガール 代表取締役、オガールプラザ株式会社 代表取締役、オガールセンター株式会社 代表取締役、株式会社吉本・オガール地方創生アカデミー 代表取締役。

懇親ゴルフ大会

■日程 10月14日(金)
メイプルカントリークラブ
〒020-0709 岩手県滝沢市大沢外山野1-1
TEL 019-684-5111
午前8時00分 OUT・IN同時スタート
※単位会対抗戦開催
●2016年アリナミンVカップ



記念旅行

～東北の新・世界遺産・大自然、
三陸復興の軌跡を辿る3日間の旅～
10月14日(金)→10月16日(日)



※詳細はパンフレットをご覧ください。

大特集 北東北地方の魅力を徹底紹介!!

北東北とは

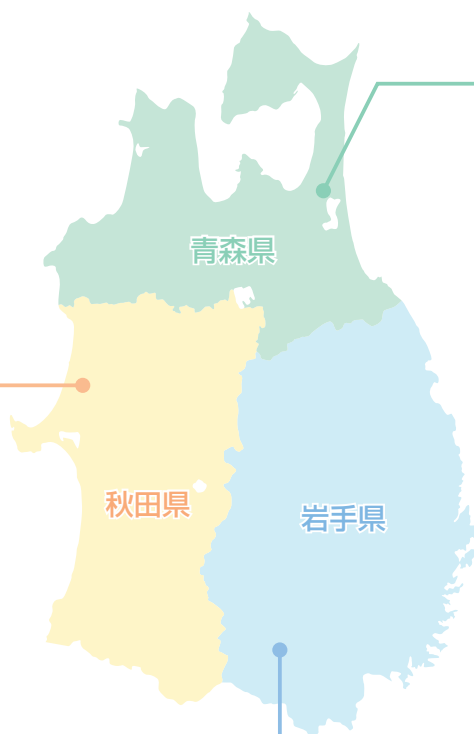
本州の最北部、東北地方の3県からなる地域です。東北の脊梁・奥羽山脈^{せきりょう}は青森県夏泊半島から南西500km先の栃木県那須岳にまで及ぶ火山帯で、この山脈を境に太平洋側と日本海側で異なる気候や地形の違いを活かした産業が発展しています。例えば、八甲田山（青森県）の日本海側には津軽平野が広がり、全国屈指のリンゴの栽培地となっています。また、奥羽山脈と出羽山地の間にある秋田県の横手盆地は国内有数の穀倉地帯で「あきたこまち」の主産地です。太平洋側は三陸沖・常磐沖の豊かな漁場に恵まれ、岩手県の三陸海岸沿いには98の漁港と6つの港湾が点在しています。また、リアス式海岸を活かしたホヤやカキ、ワカメなどの養殖業も盛んです。



秋田県のキャラクター「んだッチ」
©2015 秋田県んだッチ R040015

秋田県はこんなところ

■方言の特徴:大きく北部、中央、南部の3地域に分類される。母音の区別が曖昧で「すし」は「すす」、「いき」は「えき」となる。「食べな」が「け」、「食べる」が「く」など、短い表現が多いのも特徴。
■県のキャッチコピー:んだ。んだ。秋田。
■県が誇るNo.1:重要無形文化財の件数、杉の人工林面積、風力発電導入量、理容所・美容所の数
■県のキャラクター「んだッチ」について:近未来から秋田をPRするためにやって来た、なまはげ型の子どもロボット。



青森県のキャラクター「いくべえ」

青森県はこんなところ

■方言の特徴:津軽弁、南部弁、下北弁の3種類に分類される。例えば、「私」は津軽弁で「わ」「おら」、南部弁で「わぁ」「おら」「おれ」、下北弁で「わい」「わら」「わ」。特に下北弁は南部、津軽とも違う独自の表現が多い。
■県のキャッチコピー:活彩あおもり
■県が誇るNo.1:りんご収穫量、人口10万人当たりの公衆浴場数、いか類漁獲量、ブナ蓄積量
■県のキャラクター「いくべえ」について:青森を気に入り住みついた妖精で、りんごの花の帽子と世界遺産白神山地のブナの葉の尻尾がチャームポイント。



岩手県のキャラクター「そばっち」
©いわて観光キャンペーン推進協議会

岩手県はこんなところ

■方言の特徴:県北(二戸)、県央(盛岡)、県南(奥州)、沿岸(宮古)、気仙(大船渡)の5つの地域に分類される。NHK連続テレビ小説『あまちゃん』で一躍有名になった「じゃえじゃえ」は驚きや感動を表す久慈市小袖地区の方言。
■県のキャッチコピー:黄金の国、いわて。
■県が誇るNo.1:木炭出荷量、漆の出荷量、りんどう出荷量
■県のキャラクター「そばっち」について:「わんこきょうだい」のメインキャラクターで、県を代表するおもてなしの食材「わんこそば」がモチーフ。

青森県

〈観光スポット〉

●十和田湖



十和田湖

開放的な大パノラマ

が広がる雄大な湖。湖の周辺にはブナなどの自然林が広がり、夏は新緑、秋は紅葉、冬は銀世界の森と四季折々の風景が湖面に映し出されます。湖に突き出した中山半島にある「十和田神社」は龍神信仰のパワースポットとして知られています。

●弘前城

弘前公園の中にある日本最北端の天守で、城門や櫓、濠などの遺構が当時の姿を留めています。日本屈指の桜の名所として有名ですが、秋は豪華絢爛な菊人形が並ぶ「弘前城菊と紅葉まつり」、冬は「弘前城雪燈籠まつり」など季節ごとの美しさを楽しめます。

●ねぶたの家ワ・ラッセ

通年でねぶた祭の歴史や魅力余すところなく紹介する施設です。1階の吹き抜けになったスペースには大型ねぶたが常設展示されており、祭の世界をリアルに体感できます。2階の「ねぶたミュージアム」では映像などでねぶた祭の起源や歴史などを詳しく知ることができます。

〈食べ物とお土産〉

●のつけ丼

青森市民の台所、古川市場・青森魚菜センターの名物。市場内を自由にまわって、新鮮な魚介類、惣菜、地元の特産品や名物などを好きな分だけ、てんこ盛りにつけることができます。

●アップルパイ

リンゴ生産量日本一の青森県のリンゴスイーツはピカイチ。弘前市内のケーキ屋や喫茶店が提供するオリジナルアップルパイを紹介する「弘前アップルパイガイドマップ」は必見です。弘前観光コンベンション協会のHPから無料でダウンロードできます。

●十和田バラ焼き

牛バラ肉とスライスしたタマネギを鉄板の上で醤油ベースの甘辛いタレで炒めた十和田市のソウルフードです。戦後、三沢米軍基地前の屋台で生まれ爆発的に広まりました。市内40以上の店でメニューとして提供されており、店舗ごとに独自の味があります。



のつけ丼



十和田バラ焼き

秋田県

〈観光スポット〉

●秋田犬の里

大館市生まれの忠犬

ハチ公が飼い主を待ち続けた、大正時代の渋谷駅の駅舎がモデル。同館には、秋田犬の特徴や歴史に触れられる秋田犬ミュージアムや秋田犬を見学できる秋田犬展示室があります。観光案内所も併設されているので、周辺の観光の拠点にピッタリです。

●元滝伏流水

鳥海山の溶岩の末端崖があり、そこから流れ落ちている湧き水が滝のようになっています。その規模は落差約5m、幅約30m、水温は一年を通じて10℃ほど。周辺には霧が立ち込め、「白いカーテン」と呼ばれる幻想的な景色が広がっています。

●西馬音内盆踊り

日本三大盆踊りの一つと称される。



西馬音内盆踊り



秋田犬の里

道路に篝火^{かがりび}を点け、それを囲うように踊り子たちが踊りを披露します。期間は8月16日から3日間。羽後町内には西馬音内盆踊り会館があり、通年で衣装展示や映像視聴を楽しめます。

〈食べ物とお土産〉

●鶏めし弁当

JR大館駅前の「花善」の名物弁当。秘伝のスープで炊いたご飯と、甘辛く煮た国産鶏肉のバランスの良さが人気です。最近はフランス・パリで販売されるなど、国内外で高い評価を受けています。

●天然岩ガキ

夏の秋田の代表食材。産地のひとつ、にかほ市では毎年6月上旬から産地ごとに順次漁が解禁されます。鳥海山の伏流水で育った岩ガキはミネラル豊富で身もプリップリ。生はもちろん、焼いても揚げても絶品です。

●西馬音内そば

「冷やがけ」が特徴で、羽後町内の7店舗で食べられます。江戸時代創業の「弥助そばや」がルーツとされ、味を競うように町内にそば文化が広がったとされています。食べ比べもオススメです。



天然岩ガキ

岩手県

〈観光スポット〉

●世界遺産「平泉」

中尊寺、毛越寺、



毛越寺

観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山の5つの構成遺産で形成されています。

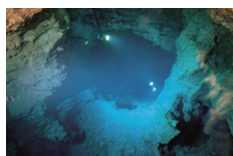
中尊寺は慈覚大師円仁が開山し、後に藤原清衡公が多くの堂塔を造営しました。これは前九年・後三年の役で亡くなった人々の霊を敵味方なくさぐさめ、仏国土の建設を目指したものです。

●龍泉洞

日本三大鍾乳洞の一つで国の天然記念物にも指定されています。総延長は4088m、洞内の奥底から数カ所にわたって清水が湧き出ており地底湖を形成しています。中でも第3地底湖は水深98mと深いに透明度が高く、目が覚めるような青さが神秘的です。

●三陸復興国立公園

青森県八戸市から宮城県石巻市までの太平洋沿岸に広がる国立公園。断崖



龍泉洞の第3地底湖

絶壁の自然景勝地・北山崎を洋上から満喫できる北山崎断崖クルーズ観光船や赤松林に囲まれた黒崎オートキャンプ場＆

黒崎キャンプ場などが人気です。

〈食べ物とお土産〉

●盛岡三大麺（盛岡冷麺・盛岡じゃじゃ麺・わんこそば）

ツルツとした食感、コシの強い麺が魅力の「盛岡冷麺」、温かい平麺の上にキュウリやネギ、特製肉みそを全体によくからめて食べる「盛岡じゃじゃ麺」、茹でたてのそばを椀に盛っておもてなしする「わんこそば」は盛岡を代表する三大麺です。

●餅料理

県南地方には冠婚葬祭や農作業の節目などに餅をついて振る舞う文化が根付いています。あんこや雑煮、大豆をすり潰した「ずんだ」、沼エビや川エビを餅にからめた「エビ餅」など300種類もあると言われています。

●南部鉄器

1959年、古くから鉄鑄物の歴史を持つ盛岡と奥州の組合が共同で「南部鉄器」にブランドを一本化し、販路の拡大に成功しました。南部鉄器の鉄瓶や鉄鍋、急須を使うと、人体に不可欠な鉄分を補給できるといわれる効果もあります。



わんこそば

column 1

◆世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」

2021年7月27日に世界文化遺産に登録されました。北海道6遺跡、青森県8遺跡、岩手県1遺跡、秋田県2遺跡の計17遺跡で構成されており、縄文時代の人々の生活、精神文化を今に伝えています。

●青森県

亀ヶ丘石器時代遺跡(つがる市)
1887年に発掘された左脚を欠いた大型土偶(国重要文化財)は「遮光器土偶」の名称の由来となったことで知られています。岩木川沿岸の標高7～18mの丘陵上に土坑墓が多数群集し、長期間にわたり祖先崇拝が行われていたことが分かっています。



●秋田県 いせどうたい 伊勢堂岱遺跡(北秋田市)

自然石を環状に並べた直径30m以上の4つの環状列石が見つかったようですが、このような例は他では見られません。周辺からは土偶、動物形土製品、鐔形土製品、岩版類、三脚石器、石剣類などが多数出土しており、共同墓地であるとともに、祭祀・儀礼の空間でもあったと考えられています。



●岩手県 御所野遺跡(一戸町)

発掘調査から7万5000㎡の面積に1000棟以上の住居があったことが分かっています。盛土からは焼かれたシカ、イノシシなどの動物骨、さらに祭祀遺物と考えられる土偶、土製品などが集中的に出土しており、火を使用した祭祀が繰り返行われていたことを示しています。



◆北東北の百名山

文筆家で登山家であった深田久弥氏が実際に登頂した山から100座を選んだ『日本百名山』から、北東北の名峰をご紹介します。山の周辺には温泉や宿泊施設も充実しています。

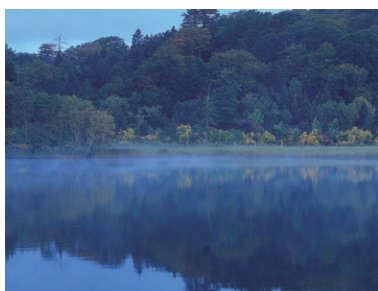
●青森県 岩木山

標高1625m、津軽平野の中心にそびえ立ち「津軽富士」と呼ばれています。山頂からは同じ県内の名峰・八甲田山や白神岳、津軽海峡などの雄大な展望が楽しめます。山の8合目までは車で上れる有料道路があり、さらにリフトで9合目まで行けるなど登山初心者でも楽しめます。



●秋田県 八幡平

秋田県と岩手県境にまたがる八幡平は原生林や高山植物が広がる高原状火山台地で、約40もの火山が集まっています。八幡平の山頂と八幡沼を巡るトレッキングコースは遊歩道も整備されており、2、3時間ほどの歩行時間で高山植物や森林景観を楽しむことができます。



●岩手県 岩手山

標高2038mで県内最高峰、盛岡市の西北盛岡平野の真ん中にどっしりと構えた大型の活火山で、「南部片富士」の名で親しまれています。登山道として人気が高いのは滝沢市の馬返しから出発する柳沢コース。往復の歩行時間は10時間ほどかかります。



東北会はこんな組織!!

東北ミロク会計人会(東北会)は、青森県・秋田県・岩手県の北地区と宮城県・山形県・福島県の南地区、東北6県2地区で構成されています。MJS仙台支社に事務局を置き、メインの活動は東北税理士会認定の所長職員研修の実施、会員同士の親睦を深めるためのゴルフコンペや懇親会を随時開催しております。また、今後は会報誌を創刊し、東北会の活動をさらに活発にするために会員の皆様への情報発信を行っていきます。



左: コロナ前の懇親会の模様
右: ゴルフコンペの模様



MJS北東圏統括部長
齊藤 公

全国統一研修会 いわて盛岡大会。岩手県盛岡市での開催は今回が初めてとなります。東北ミロク会計人会会員の先生方にお力添えいただきながら、MJS仙台支社・盛岡支社メンバーも準備に取り組んでいます。北東北3県(青森・秋田・岩手)の魅力を十二分にお伝えできる大会となります。全国の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



MJS仙台支社長
櫻井 和宏

MJS仙台支社では、東北6県の先生方と13年ぶりの東北大会を成功させるべく取り組んでいます。初めての盛岡開催ということもあり、東北地方全体の魅力を全国の皆様にご認識いただく大会となるようにしていきます。ぜひとも多くの皆様方のご参加をお待ちしております。



MJS盛岡支社長
南 仁裕

MJS盛岡支社では、全国各地から皆様にお越しいただけるよう、そして心から楽しんでいただけるよう東北会の先生方と協力しながら、大会の準備を進めています。平泉・三内丸山遺跡などの世界遺産、奥入瀬溪流・八幡平の紅葉・リアス式海岸など見所たくさんの北東北です。全国の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ウェブ会議のポイント解説

コロナ禍を契機に、対面ではなくウェブで会議をする機会が増えた方も多いかと思います。対面とは違い、会話をするだけでも苦慮する場合があります、スムーズにコミュニケーションを図るには工夫が必要です。また、会議システムによって便利な機能もあります。そこで、一般社団法人会議ファシリテーター普及協会代表理事を務める釘山 健一氏に、「会議ファシリテーション」のノウハウとウェブ会議をスムーズに進めるポイントをレクチャーしていただきます。

ウェブ会議では参加者に
大きめリアクションを促す

コロナ禍においてリモートワークが普及したことで、ウェブ会議に関するノウハウ本が多数刊行されています。その中では多くの場合、ウェブ会議に用いるツールや機能を使いこなして効率的に会議を進める方法論が説かれていくようです。しかし「便利なオンラインツールを使えば会議が効率的で有意義なものになる」とは言えません。なぜなら、パソコンなどの画面越しに行われるウェブ会議では話しやすい雰囲気づくりや気楽な発言や会話が難しいからです。そのため、ウェブ会議のファシリテーター※には、リアル会議以上にコミュニケーションを円滑にするための工夫や気配りが求められます。例えばウェブ会議において「人の発



釘山 健一 氏

会議ファシリテーター養成人、
一般社団法人会議ファシリテーター
普及協会 代表理事

トリプルキャリア(教員、営業マン、市民活動スタッフ)に基づき、「会議を変えると社会が変わる」と確信。参加者の主体性と可能性を引き出す「合意形成型会議」の新たな会議手法を構築する。現在、企業・行政のファシリテーター養成人として精力的に活動。年間100本の講座実績を持つ。

言をじつと聞く」姿勢は、「銅像のよう」に固まっている姿」に映ってしまい、動きがないと「パソコンがフリーズしてしまったのかな」「ちゃんと聞こえているのだろうか」と他の参加者に心配をかけてしまいます。そこで大事になってくるのが、ファシリテーターが参加者にできるだけリアクションをとるよう促すことです。私自身がファシリテーターを務める際には、話し合いの初めに必ず「リアクションは普段の2倍でお願いします」と伝えます。それに加えて、話し合いの途中で「共感した人は拍手をしてください」「分かった人はOKサインをお願いします」といった具合にリアクションを促すようにしています。こうした工夫で「リアクション2倍」が当たり前になれば、リアルな会議でも大きなリアクションで話を聴く癖がつくことと思います。

話しやすい雰囲気づくりのため
「環境整備」も重要

なるべくリアルでの会議と同様の環境をつくって参加者同士が話しやすくすることも非常に重要です。最も良くないのは、参加者の画面が薄暗かったり、インターネット環境が不十分で画面が粗くなってしまうといったことです。薄暗くて粗い画面の向こうにいる顔もよく見えない人物が相手では、満足に会話もできません。インターネット環境を整えるのは当然として、私がウェブ会議を主催する際には「とにかく照明を明るくしましょう」と参加者に呼びかけています。ちなみに私自身は6畳間に24畳用のメインライトを付けている他、正面と左右で計3つのリングライトを使っています。

もちろん、画面の明るさと同様、音声をクリアにする努力も怠ってはいけません。努力といっても事は簡単で、外付けのマイクを導入するだけでパソコンの内蔵マイクとは聞きやすさ、明瞭さが段違いになります。相手の表情や目・口の動きなどがリアル会議よりも分かりづらく、互いの発言や動きが参加者に伝わるまでに微妙なタイムラグが生じるウェブ会議。そうした数々

※会議が円滑に進行するよう働きかける役割

各種ウェブ会議ツールの特徴

この数年のリモートワークの普及を背景に、様々なウェブ会議ツールが台頭しています。

釘山氏のお勧めは「一般的に広く使われていて、使いやすい」Zoom。

この他、代表的なものをいくつか紹介したいと思います。

Zoom

国内で最も有名なウェブ会議ツール。何より認知度・普及率が高く、多くの人が既に使い方を知っているのも、スムーズにウェブ会議を始められるのが大きな強みです。ホスト以外は特に情報登録をしなくても気軽に会議に参加することができます。

Microsoft Teams

Microsoft社が運営する「Office 365」のチームコラボレーションサービス。ウェブ会議に必要な機能が揃っているのはもちろん、「Word」「Excel」といったオフィス製品と連携できるのが特徴で、リアルタイムで生産性の高い協働作業を行うことが可能です。

Google Meet

Google社が提供するコミュニケーションツール。チャットやグループでのビデオ通話(同時に最大10人まで)などが無料で利用できる他、Googleドキュメントの共同編集が可能です。Gmailアプリからすぐにビデオ会議を開始でき、参加者も招待メールのリンクをタップするだけで参加できます。

Slack

世界中で人気のビジネスチャットツール。無料ビデオ通話や画面共有にも対応していますが、最も大きな特徴は幅広い外部アプリとの連携が可能であること。複数のアプリを起動させなくてもSlack上でスケジュール確認やメール送受信といった作業を行うことができます。



Cisco Webex Meetings

アメリカのシスコシステムズが提供する、世界で最も使われているウェブ会議システム。使い勝手や仕様はZoomと似ていると言われ、Zoom同様、ウェブ会議に必要な機能を過不足なく備えています。また、暗号化技術を用いたセキュリティの高さに定評があり、安全性を特に重視する企業によく選ばれています。

合意形成を経て 結論に至るために

の弱点を乗り越えるには、便利な機能よりもまずは環境整備、これを心がけていただきたいと思います。

こうした細かな工夫はもちろん大事ですが、ここからはさらに大前提として「そもそも会議ファシリテーションとは何か」をあらためて考えながら、ウェブ会議ならではの注意点や機能の活用について触れていきたいと思います。

数年前から会議を効率的で有意義なものにするためのスキルとして「ファシリテーション」が注目されていますが、これはあくまでも欧米で生み出されたものであって、そのまま日本で導入しても思うような効果を上げることができません。何しろ日本と欧米とは、会議参加者の性質が大きく異なります。大まかに言うと、欧米人が「自分から発言する、論理的に話すことに慣れている」のに対し、日本人は「自分から発言しない、感覚で話すことが多い」のが特徴。欧米型の会議ファシリテーションは当然、主体的に意見を発信する人が集まる会議で使うことを想定しているため、日本人には馴染まないことのほうが多いのです。そこで、

私は日本人の性質を踏まえた「日本型ファシリテーション」を提案してきました。日本型ファシリテーションの目的は、参加者全員がしっかりと発言・発信し、合意形成を経て納得感・満足感のある結論に至ること、その一点にあります。では、合意形成とは何かをお話ししましょう。

会議で結論を出すための手法としては、多数決が一般的です。それ自体はもちろん悪いことではないのですが、多くの会議では合意形成を経ることなく多数決で事を決めてしまっています。

「合意」とは、反対意見が一つもなく全員が同じ結論に至るということではありません。むしろ、皆それぞれ意見は違っても、辿り着いた結論に反対でも、「皆で決めたことだから納得感をもってそれを受け入れよう」と参加者が思えることが目指すべき会議のゴール、合意の基本なのです。この合意を形成するには「参加者全員から発言を引き出し、皆で決めたという一体感」を生み出す必要があります。そのための環境づくりや手法の一部を説明していきます。

・グループ分け

参加者全員が発言できるようにするためにまず大事ななのは、会議の人数を

絞ることです。私がこれまで、数多くの企業や行政におけるファシリテーター養成に取り組んできた経験からいうと、リアル会議において参加者全員が自由に発言できる人数は最大で4人。それ以上の参加者がいる会議の場合は、必ずグループ分けを行うべきです。まずグループごとに話し合った上で、全体の会議に移るという流れがよいと思います。その場合のグループメンバーの上限ももちろん4人。例えば12人の会議の場合、ちょうど半分の6人で2グループに分けたくなるかもしれませんが、6人だと積極的に発言するのはせいぜい3〜4人で、残りの2〜3人は発言力のある人たちに押されて「ただ聞いているだけ」になってしまいます。これでは、納得感・満足感を持った合意形成は望めないでしょう。

リアル会議より発言しにくく、コミュニケーションが取りにくいウェブ会議では、なおさら参加者全員が発言できる環境づくりが大事です。「リアル会議でなら自信を持って発言できるが、ウェブ会議では遠慮してしまう」という人も多く、ウェブ会議で積極的・主体的に意見を言える人はかなり突出した希少な人だということを前提に考えておいたほうが確実です。そのためウェブ会議の場合、グループ分けのメン

バーはリアル会議よりさらに減らし、最大3人までとするのがベターだと思います。なお、ウェブ会議用のオンラインツールには、それぞれ参加者が複数のグループに分かれて話し合うための機能が備わっており、ごく簡単にその機能を利用することができます。例えばZoomであれば、事前に「ブレイクアウトセッション機能」を有効にしておき、会議が始まったら下部の「ブレイクアウトセッション」アイコンをクリック、各ルームの人数やメンバー、ルーム名などを決めていくだけです。とても便利な機能なので、ぜひ使ってみてほしいと思います。

・紙に書きださせる工夫

参加者が「言いたいことを十分に言えていない」という不満感を抱えている会議では、当然のことながら一体感も満足感も生み出せません。そこで、リアル会議では「全員発言」につながるよう「付箋」を活用することをお勧めしていますが、ウェブ会議ではこれが使えないため、付箋の代わりにA4の紙などに意見やアイデアを書きださせることで「参加者の主体性や可能性を引き出す」よう努めてください。まず3分ほど時間をとって、参加者それぞれがテーマから思いつくこと

『公務員の会議ファシリテーションの教科書』

(釘山健一、学陽書房、2090円)

企業・行政のファシリテーター養成人として精力的に活動する釘山 健一氏が「会議を変えたい全ての公務員」に向けて書き下ろした一冊。特に日本人の特性を踏まえてスキル化された「日本型ファシリテーション」のノウハウやポイントを、基礎から分かりやすく徹底的に解説。その内容は公務員のみならず、広く企業人にも大いに役立つものとなっている。



を手元の紙に書き記すのがオススメです。そして全体の話し合いに移る前に参加者を3人以下の小グループに分けて話し合う、という時間を設けるのがよいでしょう。ただこの時、「紙に自分の意見を書いてください」という指示を出すのはNGです。参加者全員がやる気十分で発言力もあるという場合にはこの指示でもうまくいくかもしれませんが、発言力が弱い人は「自分の意

見」と言われると「そんなにしっかりと考えたわけではない」と固まってしまっても書けません。そこで「テーマについて思いつくことを何でもいいのでたくさん書いてください」という指示を出すようにしてみてください。小さな違いだと思われるかもしれませんが、たったこれだけで会議が劇的に変わります。何より、「書く」に対するハードルを下げることで数多くの声が上がることがになります。また「意見」と限定すると、書いた人は「ここに書かれたことが自分の意見なのだ」とそれに捉われてしまいがちですが、数多くの声が上がれば全体を見渡し、客観的な姿勢で話し合いに臨むことができるようになりますし、「皆で意見を出し合った」という一体感も生まれます。

・投票で決める

結論の出し方について、先ほど多数決が一般的と述べましたが、実はそれ以外にも「投票」という方法があります。多数決に比べて圧倒的に参加者の不満が残りにくいので、ぜひ試してみてくださいと思います。これは文字通り、参加者がそれぞれよいと思った意見やアイデアに票を投じ、その集計結果に従って結論を出すという方法ですが、やはりいくつかポイントがあります。

まず設定すべきなのが「自分の意見、自分が属するグループの意見には投票できない」というルールです。そうすれば「自分は正しい」と主張し対立し合わないで済みますし、互いに自分のグループに投票できないので「最

良のない客観的な視点で選んだ良い意見」が選ばれることとなります。そのため、参加者は投票結果を受け入れざるを得ず、不満が出にくいというわけです。また、結果をランキング表で残すことも大事です。多数決の場合、多数決で残ったものと落ちたものとに分けられ、落ちたものは消えてなくなり、これが選ばれなかった参加者の不満につながってしまいます。一方、投票結果のランキング表には、いろいろと出された意見やアイデアが消えることなく示されます。これが全ての意見を大切に同等に扱っている証しとして、参加者に納得感を与えてくれるのです。

ウェブ会議の場合、Zoomなどの機能を使えば、この投票をきわめて迅速に行うことができます。その方法は「ブレイクアウトセッション」よりはやや複雑ですが、慣れれば簡単です。事前にミーティング設定画面に「投票」を追加し、質問文と選択肢を作成、会議中にファシリテーターが「投票の起動」をクリックすれば、参加者全員に

その質問文と選択肢が共有され、回答できるようになる、というわけです。「ブレイクアウトセッション」同様、ぜひお試しください。機能です。

堅苦しい会議より 気軽な「対話」を

ここまで、リアルとオンラインを問わず、広く会議における合意形成に役立つノウハウやポイント、そしてウェブならではの機能についてもいろいろと解説してきましたが、最後に「対話」の重要性についてお伝えしたいと思います。会議というと、何らかの課題を解決したり重要事項の結論を出したりするために「意見を言い合う場」というイメージが一般的ですが、これに對して対話とは「思いを語り合う」ことです。意見には根拠が求められるため、「意見を言い合う場」としての会議ではどうしても、参加者は何か思いついたことがあっても気軽には言えず、発言に慎重になりますし、発言内容に責任が問われるので意見を言いくくります。

一方、「思いを語り合う」なら発言に根拠などいらず、「何となく」や思いつきで気軽に発言でき、責任も問われないので尻込みすることもあります。これからは従来のような堅苦しい

会議ではなく、こうした対話の場を数多く重ねることが企業や行政の問題解決や組織改革に必要なものでしょうか。そして何らかの結論を出す必要がある場合でも、まずは日本型ファシリテーションによる対話の場をつくって互いに思いを語り合い、一体感を醸成した上で本題の会議に入っていくのがもっともスムーズだと思います。当然、リアルの会議以上に発言しにくく、コミュニケーションを取るのが難しいウェブ会議においては、この対話や「全員発言」のための環境づくりが非常に大事になってきます。今回紹介したポイントを押さえるとともに「気軽に即座に、参加者の居場所を問わずミーティングを設定できる」ウェブ会議ならではの利点や各種機能を活かし、ぜひ対話を重ねていただきたいと思います。

本誌アンケートに答えた方に毎月抽選で

2,000円分を
プレゼント!



QRコードからアクセスし、
ぜひお答えください!



事務所全体で明るい雰囲気を醸成し 職員や顧問先に「安心」を提供し続けたい!!

国内有数の漁業の町として知られる青森県八戸市。税理士法人恒輝 八戸経営会計事務所は創業1963年の老舗会計事務所、長年にわたって地域の法人・個人の経営や税務会計業務をサポートし続けています。

そこで、2代目の西川 弥生代表社員にこれまでの歩みや昨今の取り組みについて伺いました。

地域や人、そして職員を意識した 事務所経営を展開

——税理士法人恒輝 八戸経営会計事務所
の前身は父上の個人事務所だったそうですね。

西川 弥生代表社員（以下、敬称略）

父は岩手県水沢市（現奥州市）出身で、もともとは国税局の職員だったのですが、早いうちに決意をして税理士となり、32歳で母の実家がある青森県八戸市に事務所を開業しました。それが当事務所の前身です。

——西川先生はいつ頃、父上の事務所に入所したのですか。

西川 「外の釜の飯を食うことは大事」という先輩の助言で、しばらくは会計

事務所 訪問

税理士法人恒輝 八戸経営会計事務所

所在地 青森県八戸市小中野3-11-10
TEL 0178-22-8281
事業承継 1963年
職員数 16名
<http://www.hachikei.jp>



事務所に勤務したり、派遣に登録して大企業の経理で働いてみたりしました。そして、36歳の時に八戸に戻り、父の事務所働き始め、税理士登録をしました。

——東京での業務と八戸との業務にギャップはありましたか。

西川 東京の顧問先は法人でした。地方ですと、社長が給与のほかに不動産所得があつて、所得税の申告をすることもありですが、東京の都心の事務所でしたので、給与所得だけで年末調整で済むもので、所得税の申告書は書いたことがありませんでした。

八戸の顧問先は、法人のお客様でも、個人の給与あり、不動産所得あり、年金あり、医療費控除ありで、所得税も

含めて関与するお客様です。また、東京では、所長が若かったこともあり、相続税の案件が発生することはありませんでした。しかし八戸に来てからは、法人の利益、個人の所得、最後の相続と、顧問先の一生を見る必要があることを知りました。

——東京での業務経験が役立ったことはありましたか。

西川 東京で最初に働いた事務所の先生は非常に豪快な方で、その経営方針や職員に対する接し方には実に学ぶところがありました。その一つが給与面での対応です。職員一人ひとりの仕事ぶりを正確に把握し、成果を上げていく職員にはしっかりと還元するというスタンスをとっており、私の給与についても1年も経たないうちに大幅に引き上げていただきました。こういった素晴らしい手法については、現在の私の事務所経営

にもできるだけ取り入れるようにしています。

——父上にはどういったことを学びましたか。

西川 父には



昨年12月に完成した新しいオフィスです

地域の人たちと交流することの大切さを学びました。父は地元の商工会議所やライオンズクラブ、法人会などさまざまな団体に所属し、それぞれ重要な役職を担っていました。振り返ってみると、その根底には「地域に貢献したい」という思いがあったと思いますし、実務に関しても全ての人の相談に親身に対応していました。ある時、生前の父をよく知る人から「あなたのお父さんはたびたびコーヒーをご馳走してくれて、いろんな話を聞いてくれた」と声をかけていただいたことがあります。が、そういった寄り添い方が父の持ち味だったのだと思います。おかげで、私も自然な流れで地域や人との関係性を大切にするようになり、八戸に戻って以降は各団体の女性部などに所属している他、積極的に地域貢献活動に取り組んでいます。

父上の教えを守りながら 中小事業者に寄り添う

——現在の事務所名を拝見しますと「税理士法人恒輝 八戸経営会計事務所」ですが、税理士法人恒輝との関係性はどうなののでしょうか。

西川 もともと父と私で税理士法人八戸経営会計事務所を運営していたのですが、父が2015年に亡くなっ

からは税理士が私一人になってしまったため、しばらく西川弥生税理士事務所として運営していました。しかし、それでは私に何かあった時に顧問先や職員を守ることができません。そこで、漠然と「他の税理士法人や会計事務所と一緒にあったほうが良いのではないか」と考えていたところ、ありがたいことにさまざまな方からお声がけいただき、最終的に東京に拠点を持つ税理士法人恒輝に加わることにしたのです。

——他の税理士法人に参画するにあたって、何か変化はありましたか。

西川 現状、大きな変化はありません。その一方で、社員研修や旅行などで税理士法人内の他事務所と一緒になる機会が増えたことで、職員たちが自分たちの日頃の業務体制や職場環境を客観視できるようになった側面があるかもしれません。一例を挙げますと、当事務所ではこれまで社員旅行で国内外に行くなど福利厚生に力を入れてきたのですが、あらためてその素晴らしさを実感してくれているようです。

——「熱意」「創造」「感謝」という杜訓、そして「基本は法律」「進化する仕事」「期限の利益」「善管注意業務」といった行動指針を掲げられていますね。

西川 いずれも父が策定したものであり、今も当事務所が大切にしています。

ることの一つです。また、そういったモットーの下、当事務所では「会計顧問サービス」という方針で顧問先支援にあたっています。これは年に1回の決算対応だけでなく、顧問先の自計化を推進しその経営指標を読み解くことで、経営改善のためのアドバイスも行うという主旨のもので、ご要望をいただいた顧問先に対しては規模や業種、設立時期を問わず、この指針に則ったサービスを提供するようにしています。

——顧問先の業種などに特色はありますか。

西川 八戸漁港が国内有数の漁獲量を誇ることもあって、漁業や水産加工業に関連する事業者もありますが、全体的には業種偏りなく担当しています。あと、先述したように中小事業者が多く、東北地方の商工会議所の中でも4番目に会員が多い地域となっています。

——そういった中小事業者をサポートする上で大切にしていることがあればお聞かせください。

西川 代表者の性格や個性とこちらの担当職員の相性が良いのかどうかといった点には注意を払うようにしています。いかに良質なサポートを提供して末永いお付き合いにならない可能性もあるのか、何かしらの予兆を感じたら、



さまざまなことを糧としながら地域の事業者を支援する
西川 弥生先生

担当を交代するなど先回りして対応するようにしています。

——ワンストップサービスにも力を入れているそうですね。

西川 中小事業者の中には税理士以外の士業と接点を持っていない方もいますので、弁護士や司法書士、社会保険労務士などとネットワークを組み、地域の駆け込み寺として即座に幅広い質問に対応できるようにしています。

所長が率先して取り組む 明るい雰囲気づくり

——一般社団法人日本経営コーチ協会が認定している「経営コーチ認定事務所」でもあるそうですね。

西川 私は2008年に日本経営コー

チ協会が設立した際の立ち上げメンバーの一人でもあり、当初から協会が認定の経営コーチとして長年にわたって顧問先と向き合ってきました。経営コーチにはリーダーシップやマネジメントといった経営の知識はもちろん、経営者に寄り添い、伴走しながらアドバイスするスタンスが求められるのですが、まさにそれは父や私が大切にしてきた中小事業者との接し方でもあります。ただ、事務所全体でそのスタンスを維持していくには、職員にもその考え方を理解してもらう必要があるのですが、今も月に1回くらいのペースで有志を募り、私と一緒に日本経営コーチ協会の研修を受講してもらっています。

——その他、事務所経営にあたって注力されていることはありますか。

西川 社内研修の一つとしてMICC研究所の佐藤茂則先生に研修してもらっています。あらためて代表である私の精神状態が事務所や職員一人ひとりの雰囲気に影響すること、そしてそれが顧問先にも影響することを学んだので、今は私自身が率先して明るく、楽しそうに仕事に取り組むようにしています。おかげで、最近は職員の自主性も向上してきていますし、事務所の雰囲気もこれまで以上に明るくなっているように思います。

——昨今、顧問先からはどのような相談が増えていますか。

西川 相続税の対象金額が引き下げられたことで、多くの中小事業者から相談がくるようになりました。あと、最近の動向を見ると、中小事業者間でのM&Aが活発化している印象があります。しかも、最近はインターネットなどで手軽にM&Aの情報を得られることもあってか、自ら売り手・買い手を見つけてくるケースが目立っています。コロナ禍による経営悪化、経営者の高齢化などを背景に、今後もさらにこの傾向は顕著になっていくと思いますが、中小事業者とはいえ、できるだけ事前でデューデリジェンスなどを行ったほ

うがよいので、今後はそういった動向にも注意を払い、できる限りM&Aにまつわるリスクを軽減できるように努めたいと思います。

——今後の展望についてお聞かせください。

西川 無理に業務を拡大することなく、職員や顧問先に「安心」を提供し続けられる事務所を目指したいと思っています。その一環として、コロナ禍・ウクライナ危機を端緒とする物価高騰に関しても、職員に特別手当を支給するなどして、安心して働ける環境づくりを進めていきたいと考えています。

——本日はありがとうございました。ますますのご発展をお祈りいたします。

History & Story

税理士までの歩み

西川先生の父上は1963年から税理士として活躍されていましたが、当の西川先生ご自身は税理士になろうと思っていなかったといいます。ところが、高校2年生の時の担任から「お父さんの会計事務所は誰が継ぐのか」と聞かれたのを機に、「いつかは事務所を承継した方が良いのではないか」と考えるようになり、大学では経営学を専攻して簿記などを学ぶことに。その後、大学のゼミの先生からのアドバイスで大学院に進学し、資格を取得します。先輩税理士から「実家だけでなく、他の会計事務所の業務内容なども見たほうがいい」とアドバイスされたこともあって、10年近く東京の会計事務所勤務した後、八戸市に戻り、36歳の時から父上と一緒に働き始めることになったそうです。



「選択肢が多すぎると 選べない」

行動経済学やマーケティング理論の中に、「選択肢が多すぎると選べない（ジャムの法則）」というものがある。

人は、品揃えが多すぎると買いづらくなる、かえって品揃えが少ないほうが購買率も上がることがある、ということだそう。

選択肢がないのも困るが、あり過ぎると逆に選ぶことに疲れて、ストレスを感じる心理状態になるという。

最近、インターネットを開くと、電子帳簿保存法（電帳法）対応ソフトの広告が目に見え、飛び込んでくる。義務化の猶予期間も1年以上あるとはいえ、1日1日とその期間が縮まってきている。

この電帳法対応に関して厄介なのは、対応に選択肢が多いということだ。

電子帳簿・スキヤナ保存の「できる化」、電子取引データ

保存の「義務化」の部分を軸とすると、それに応じてタイムスタンプ付与などを行うか、そうでない方法をとるかなど、それぞれに複数の選択肢がある。これに各システム会社からリリースされる対応ソフトがどの部分を補完しているのか、費用面の違いはどのようなものか、などを考えるとキリがない。



しかし、他社ソフトとの違いの説明となると、やはり電帳法対応を体系的に理解しておかなければならないし、顧問先に対して、対応ソフトを導入する、しないも含めて、選択肢をお願ひしなければならなくなる。

職務上、今までも顧問先に選択を求めなくてはならない場面は多くあったが、今後インボイス制度の開始などに伴い、選択を求める場面はより多くなると思われる。

マーケティング理論をそのまま当てはめてよいものかどうかはあるが、これからは多くの選択肢を提示することが顧問先のためになるという考え方を少し修正して、単純に選択肢を提示するだけでなく、多すぎる選択肢を良い判断と決断ができるように適切に絞る、という提案も必要になってくるのだろうと思う。

表紙の写真



「盛岡市街地を望む」
（岩手県盛岡市）

第46回 全国統一研修会の会場がある岩手県盛岡市。雄大な岩手山のすそ野に広がり、中心部を北上川や中津川などが流れる水と緑豊かな街並みが特徴です。盛岡城跡公園には、石川啄木、新渡戸稲造、宮沢賢治など、盛岡にゆかりのある偉人たちの碑があります。他にも歴史ある建物が多く残り、散策するには絶好の街です。

MJSより

製品解説の動画などを
YouTubeで配信中！



MJS YouTube
公式チャンネル

税理士事務所 CHANNEL

発行 株式会社ミロク情報サービス
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-29-1
TEL. 03-5361-6309
（経営企画・広報IRグループ）

発行人 是枝周樹

編集企画 ミロク会計人会連合会広報委員会
ミロク会計人会事務局、
経営企画・広報IRグループ

監修 ミロク会計人会連合会広報委員会

配信制作 東方通信社

印刷 耕文社

※本誌に掲載されている会社名及び製品名は、
各社の商標または登録商標です。禁無断転載

ホームページにて本誌データを公開しています！ こちらもご覧ください

ミロク会計人会

検索

<https://www.mirokukai.ne.jp/channel/index.html>

日立ビジネス向けPC

HP EliteDesk 800 G6 DM/CT

拡張性を確保した省スペース筐体

高いセキュリティ・管理性を備えた小型デスクトップPC

高さ34mm、容量わずか
約1リットルの小型筐体に
高いセキュリティ・管理性を凝縮。
USB3.2ポート6基と
USB Type-CTM ポート1基を搭載。
小型筐体ながら利用シーンに
合わせた周辺機器との
高い接続性を確保



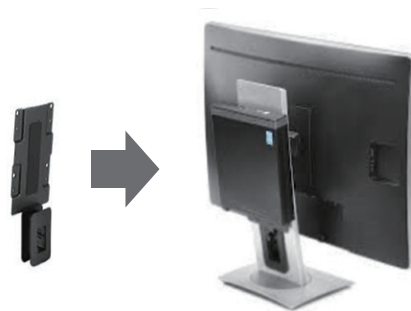
800G6 DMと800G6 SFの主なハードスペック比較

	800G6 DM	800G6 SF
CPU	Corei5-10500T (3.0GHz)	Corei5-10500 (3.1GHz)
メモリ	8GB	8GB
ディスク	256GB SSD	256GB SSD

※上記以外のスペックのご準備もごさいます。

用途に合わせたさまざまな設置方法

設置場所を選ばない小型筐体。
オプションのマウントブラケットを
使用頂ければ、PC本体の設置スペースを
実質ゼロにすることが可能。
省スペース性を生かし、
ベースモデルとしてもご利用できます。



※モニタ、マウントブラケット、外付けDVDライターは別売となります。
※モニタの種類によって使用するマウントブラケットが異なります。別途お問合せ下さい

・本資料に記載の会社名・商品名は、各社の商標または登録商標です。画面表示をはじめ、製品仕様は、改良のため変更することがあります。
・本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。

詳しい情報は
こちらのQRコード
からご覧ください

